

トランシーバーも衛星電話もない シンプルなアルパインスタイル —壁に一筋のルートを描く—

GIRIGIRI BOYS 天野和明さん



2009年フランスのピオレ・ドール（黄金のピッケル賞・高度な技術や開拓精神などを基準とする）を受賞した、GIRIGIRI BOYS チームの一員、天野和明さん（1977年生まれ）。

1800mにおよぶカランカ北壁は、9日間のアルパインスタイル登攀で、4つのビバークサイトでシュラフに入れたのは一カ所だけ、という厳しいものでした。

それを「こんな素敵でおもしろいものが他のどこにあるというのか！」と楽しんでしまう天野さんに興味津々のインタビューです。（インタビューと文：張晶子）

◆どんな小学生でしたか。

—普通ですよ。まったく普通の子どもでした。球技が苦手なタイプの。今は甲州市ですが、初鹿野駅があった大和村で育ちました。山は生活に密着したものでした。両親が山歩き好きで、年に一回くらいは山に連れて行かれました。北アルプスなどにも行ったと思います。これは特に楽しいとは思いませんでしたね（笑）。

◆ピオレ・ドールを貰ったことはどう思いましたか。

—自分たちが特別強いとも、世界に通用するレベルだとも思いません。好きで登っているだけです。登りたいところを、登りたいやり方で登る、だけなので。でも、フランスに行ってみて、日本で思っていたよりずっと権威ある素晴らしい賞なのだという事は感じました。が、今後、そのために登るということはありませんね。

昔の「岩と雪」などずいぶん読みましたが、昔のクライマーには、強い思いがあったことが伝わります。それに比べると自分などステップを踏んでいないという気がするし、本当に普通に好きにやっているだけだと思います。

◆GIRIGIRI BOYS（ギリギリボーイズ）の仲間とは、どこでどうやって知り合ったのですか。

—2007年イギリスで開催されたウィンタークライマーズミーティングに、日山協から派遣された横山勝丘と馬目弘仁が、その日本版を試みて、2008年2月に明神岳に国内のアルパインクライマーの集結をよびかけた「第0回ウィンタークライマーズミーティング」でのことです。21人が集まりました。

ここで初日に組んで明神岳 2263m 峰西壁を登った一村文隆から、インド・ヒマラヤのカランカ (6931m) へ行くという話を聞き、ちょうどインド・ヒマラヤに興味をもっていた僕はパートナーも決まっていなかったもので、メンバーに誘ってもらったのです。

◆厳しいクライミングですが、高所順応はどうかさっていますか。水分補給は充分できますか。

—高所順応は、壁に取り付く前に近くの山で行います。「ゆっくり」と「水分」あるのみです。他に特に有効なことは無いし、薬は使いません。

◆いつ頃から山に登ろうという気持ちが出てきたのですか。

—山というより、TV で見たりしたヒマラヤに、冒険的なものに魅力を感じるようになったのが、中学生の頃です。高校に山岳部は無かったので、山には一人で行ったり、友人を誘って行ったりしていました。

—高2の時、ロードレースに出る友人について八ヶ岳に行ったのですが、その会場の古本市で 10 円で買った「このやまなみの声」という本の中で、明大山岳部現役時代の植村直己さんに関する記述に出会ったことが大きかったです。

◆それで明治大学山岳部にはいられたのですね。

—96 年に明治大学に入学し、山岳部に入りました。その年の新人は 2 人しかいなくて、先輩は 9 人いましたから、始めからしっかり鍛えられました。恵まれていたと思います。新人合宿は白馬でした。

◆最初のヒマラヤは明大 OB として行かれたのですね。

—当時の明大山岳部炉辺会では、8000m14 座を達成しようという計画がありました。卒業したばかりの 2001 年にガッシュブルム I (8068m) と II (8035m) に参加しました。ポーラーメソッド登山でしたが、隊長は当時 27 才で、メンバーは 6 人という若い隊だったので楽しかった思い出があります。

2002 年には、また 6 人でローツェ (8516m) に行きました。僕は無酸素で登りました。

2003 年は、8 人のメンバーで、14 座最後のアンナプルナ (8091m) でした。ルートは南壁の英国隊ルートでしたが、シェルパを使い、ロープをフィックスして登りました。この頃、山野井さんの記録なども読んでいましたし、このときはみんな無酸素登山でした。いつかはアルパインスタイルでも出来るのではないかという感触を得たのもこのときでした。

いろいろな経験が出来たのも、本当に良い時期に明大山岳部に入ったおかげだと思っています。

◆日本にいるときはどんな生活ですか。

—普段は ICI 石井スポーツにアルバイト勤務です。夏の 2 ヶ月は富士山でガイドの仕事をしています。

土日はお客さんが多いので、休みは平日にもらって、山に行ってます。

夏の富士山には、いろいろなお客さんが来られますが、遠くから飛行機を使ってまで「一度は富士山に登りたい」という強い意欲を持って来る方も少なくないので、そういう方の思いは大事にしたいと、それなりにお世話しているつもりです。

◆ロウインパクト登山を意識することはありますか。

一特に意識はしていませんが、少ない人数で少ない装備、少ない日数で登るということは、結果的にはロウインパクトかもしれませんね。

この春は、デナリ(マッキンレー)ノーマルルートで高所順応をして、アラスカ・ハンター北壁とデナリ南壁に登られる予定だそうです。これを「フツーです。」とおっしゃるところが「旬の証」なのではないでしょうか。研究熱心で謙虚なお話ぶりに、もっと山のお話を聞き続けていたいようなひとときでした。準備にお忙しい中、快くお引き受けくださり、現代クライミング用語の解説までしていただき、ありがとうございました。